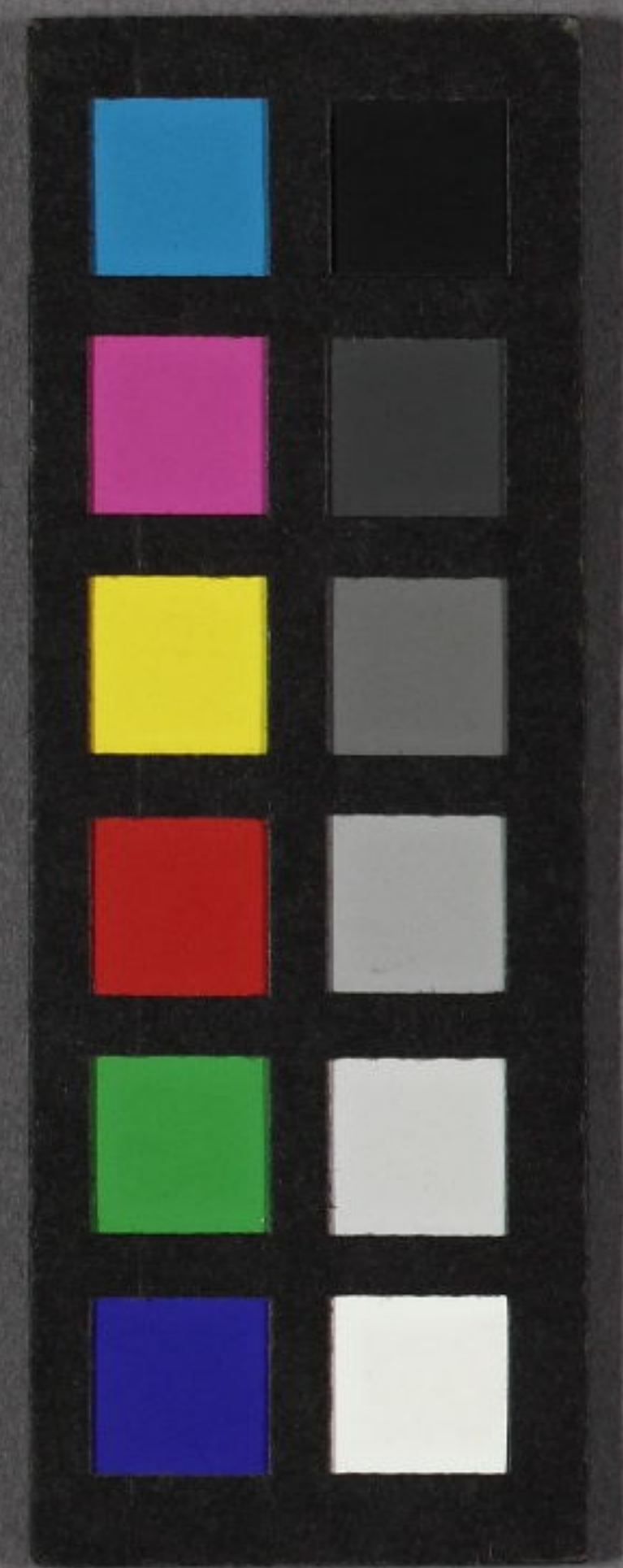




江湖新聞
第壹集



定價八分

西垣文庫
文庫 10
7289



特 文庫10
7289

江湖新聞

慶應四年辰田四月三日

新聞の張車秘説といふも著しく書記倣ふを以て大に
有益とあるものゝうそ吾國此馬あらざるなり已に
江戸におわても中外新聞内外新聞の二書最刻
ませしこれが高遠境の人といふも今の時勢を
知るに便とあり座側の重宝何事うこれふあえ今此
一書は帝蒙婦初の爲に身を死に被筆し加ふ小画
を以てするものいふある大智但耳小入るの謂ありせば
蔵者の嘲とをのくるべしに遮莫次編ふいよりあを
佳境より入るに新稿を筆最良尚を死ふあるべし

横濱新聞紙草稿の翻符

週日奥州より来りし人の話あり羽州山形より五十二里の
 左の佐川家の川ありて紫檜河川と云ふ所の奥州屋
 ありて寺河内屋の川ありて河内屋と云ふ所あり河内屋
 人数は廿二戸系沙より河内屋へ右の願地屋と云
 べたとの命ありて多人数出張し二層掛合申の折柄
 今般物仕仙臺の川ありて河内屋の老臣吉田素
 相留の川あり仙臺へ来候せし小前文隆屋徳兵衛の儀
 又物仕より命せしと云ふとて織田家の人数同所あり
 三層の掛合と云ふと云ふとて河内屋の川あり河内屋

佛國新聞紙中
 日本兵隊之縮圖

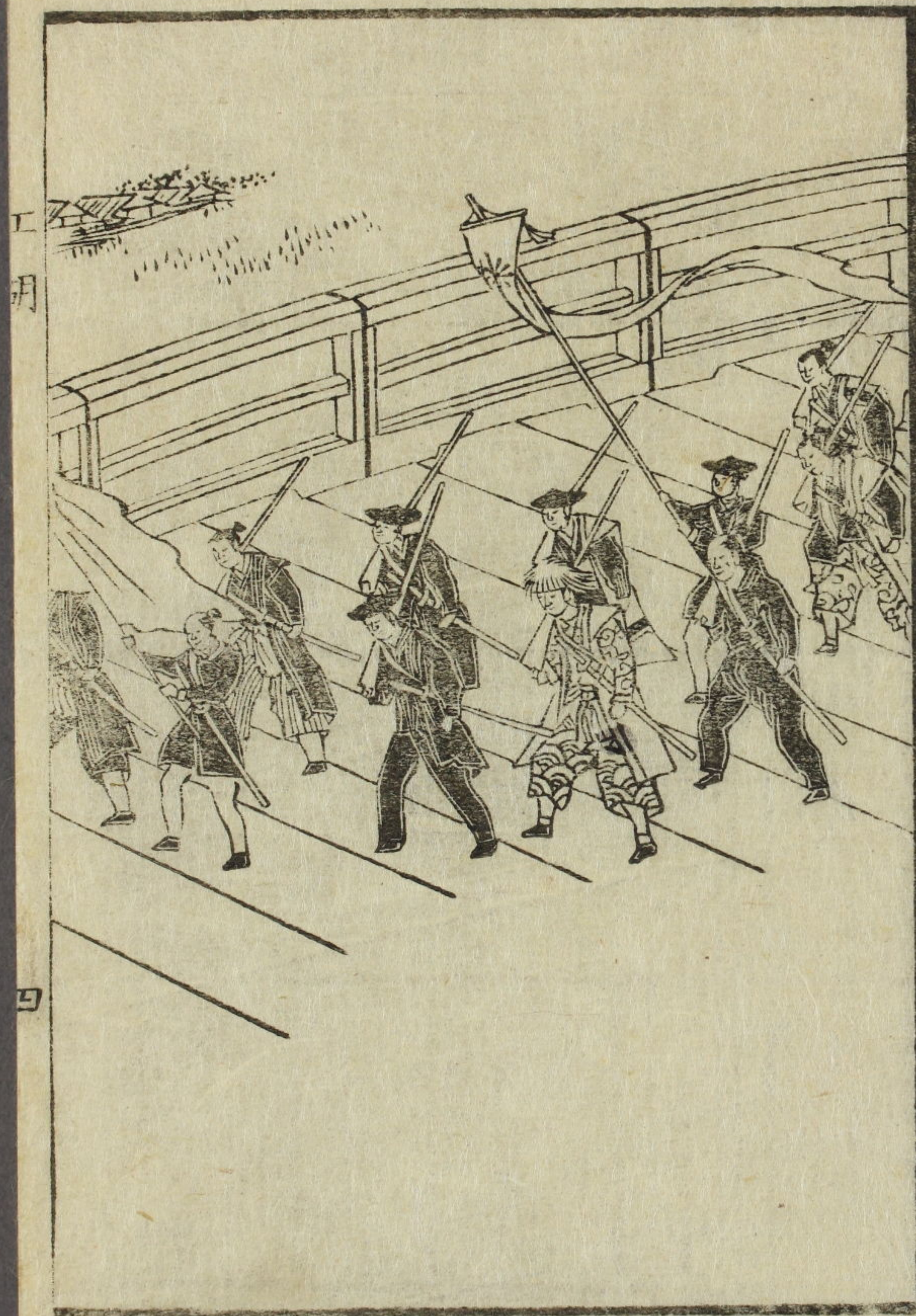


四月廿六日 大原前侍佐武の田原松平の藩ありとも
 未だ此傳をあらばといふに 行旅松平の
 相談先小押立所松平の人数は百人をもとに成隊に
 其松平は 海軍所先鋒とあるに 白旗翻懸に
 て 風はるばる 多鳥帽子小旗の束を 松平と
 るふまゝより 佐々木 彦人 数百人を 松平より 松平
 一時大川船松平彦の第の若松あり

頃日大川筋の橋より河國ありて武家の夢々姓名を問ふ

あ國橋	筑前彦
新大橋	肥前彦
大川橋	長門彦
永代橋	薩摩彦
石 系 道	細川彦
運河初ち大原殿松平彦小陣營	あふの松平彦

金 彦	紀 彦
報 彦	河 彦
	河 國



英國新聞
紙中日本
兵隊行列
之縮圖

○四月廿五日官軍參謀方々所觸る事
五月廿日所先鋒總督所總陣支配組織等調役町
寄附法石峰參謀方々漢方々大元先達池上清中受分
田安殿の涉る一少敵の所諭書附く漢文面を已志出
大總督官換江戸表に込入付る一入下民を法安後
行居せらるる事有之
相送る所敵意を違ひの所撫む所死と承く所人痛し熱
妻小生民を憐れむ是れ我久安安徳は為成文に言
言々俄処友軍大勢一時所是成以事放多き中

此處在り上卜大少敵感不致
相送る人民を所安ん所撫む之れ敵意を以て所人
才中機用所意勢を所事以所才能之士を以て所
相送る所敵意を以て所安ん所撫む之れ敵意を以て所人
所國內愈一和
皇基盤石を成り換は所敵意を以て所安ん所撫む之れ敵意を以て所人
所力で所敵意を以て所安ん所撫む之れ敵意を以て所人
換一同相承致して在る所為也
大總督様西博に所入付る所敵意を以て所安ん所撫む之れ敵意を以て所人
火々所敵意を以て所安ん所撫む之れ敵意を以て所人

